

2022年1月30日 午前礼拝
「宣教の働き」 説教:大木英雄牧師

【引用聖句】使徒 13:1~10

- 1 さて、アンテオケには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、国主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどという預言者や教師がいた。
- 2 彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい。」と言われた。
- 3 そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。
- 4 ふたりは聖霊に遣わされて、セルキヤに下り、そこから船でキプロスに渡った。
- 5 サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神のことばを宣べ始めた。彼らはヨハネを助手として連れていた。
- 6 島全体を巡回して、パポスまで行ったところ、にせ預言者で、名をバルレイエスというユダヤ人の魔術師に出会った。
- 7 この男は地方総督セルギオ・パウロのもとにいた。この総督は賢明な人であって、バルナバとサウロを招いて、神のことばを聞きたいと思っていた。
- 8 ところが、魔術師エルマ（エルマという名を訳すと魔術師）は、ふたりに反対して、総督を信仰の道から遠ざけようとした。
- 9 しかし、サウロ、別名でパウロは、聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、
- 10 言った。「ああ、あらゆる偽りとよこしまに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵。おまえは、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。」

【説教要約】

使徒 13:1, さて、アンテオケには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、国主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどという預言者や教師がいた。

アンテオケ教会が形成されていました。一人の牧師がいて教会員がいるというのではなくて、アンテオケ教会には賜物のある人が何人かいました。「預言者」神様から啓示を受けて会衆に語る人、教師はみ言葉を解釈し、教会員にわかりやすく語る能力を聖霊様から与えられている人。

バルナバは、慰めの子と呼ばれ、パウロが救われたとき、誰もパウロを恐れてパウロを受け入れなかったが、バルナバは、パウロがどのようにして救われたか、そして救われた後すぐに、諸会堂でイエスが神の子であることを宣べ伝えたことを話してエルサレム教会の人々を説得した。

ニゲルと呼ばれるシメオン、彼は生粋のユダヤ人でアフリカのユダヤ人社会の出身者でした。クレネ人ルキオは、最初にアンテオケにやってきた人です。主イエスのことを宣べ伝えたクレネ人です。

「マナエン」国主ヘロデの乳兄弟、あの邪悪なヘロデ・アンテパスの近親者の一人の人物が、キリストを信じた最初の回心者の一人であったことは興味深いことです。

「サウロ」はこれらのリストの最後に出てきます。

使徒 13:2, 彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい。」と言われた。

彼らは、主を礼拝して断食をしていた。断食は食を断つことですから、いきなりやると体を壊します。まず5分粥、を食べる、次に3分粥、を食べる、次に水だけにする。水が気持ち悪くて飲めないと、医者に相談する。

次に断食の目的ですが、生きるために大切な食を断つことですから、食べる事より大切なことを祈るのです。

聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい。」と言われた。聖霊様は目に見えるお方ではありません。聖霊様は声に出して言われるお方ではありません。

ヨハネ 14:26, しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

聖霊様はみんなの心に語りかけられたのです。

使徒 13:3, そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。

彼等 = アンテオケ教会の、シメオン、ルキオ、マナエン

彼らは聖霊様の声を聴いているのです。聖霊様は肉声ではなく心に語り掛けたのです。バルナバとサウロは、アンテオケ教会の牧師と副牧師です。普通の教会であれば「牧師と副牧師が宣教に行かれたらアンテオケ教会はどうなるのですか」と必ず反対します。しかし誰も反対していません。アンテオケ教会は全員でバルナバとサウロを送り出しています。これはアンテオケ教会の人は全員御霊に満たされていたからです。

エペソ 5:18, また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。

宣教には御霊に満たされることがどんなに大切であるかを教えられます。

使徒 13:4, ふたりは聖霊に遣わされて、セルキヤに下り、そこから船でキプロスに渡った。

バルナバとサウロは

使徒 13:2, 彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい。」と言われた。

バルナバとサウロは、聖霊様が「宣教に行きなさい」と言われたから従っただけで、どこへ宣教に行けとは命令されていないのです。行く場所も聖霊様が教えてくださるのです。

使徒 13:5, サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神のことばを宣べ始めた。彼らはヨハネを助手として連れていた。

ヨハネは、マルコのこと、ヨハネは、バルナバの「いとこ」に当たる。
ユダヤ人の会堂 = シナゴーク



使徒 13:6, 島全体を巡回して、パポスまで行ったところ、にせ預言者で、名をバルレイエスというユダヤ人の魔術師に出会った。

使徒 13:7, この男は地方総督セルギオ・パウロのもとにいた。この総督は賢明な人であって、バルナバとサウロを招いて、神のことばを聞きたいと思っていた。

使徒 13:8, ところが、魔術師エルマ（エルマという名を訳すと魔術師）は、ふたりに反対して、総督を信仰の道から遠ざけようとした。

サタンは、バルレイエスという魔術師を用いて宣教を妨害してきた、福音を語ろうとすると必ずサタンは妨害してきます。

使徒 13:9, しかし、サウロ、別名でパウロは、聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、

使徒 13:10, 言った。「ああ、あらゆる偽りとよこしまに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵。おまえは、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。

使徒 13:11, 見よ。主の御手が今、おまえの上にある。おまえは盲目になって、しばらくの間、日の光を見ることができなくなる。」と言った。するとたちまち、かすみとやみが彼をおおったので、彼は手を引いてくれる人を捜し回った。

パウロは聖霊に満たされ、彼をにらみつけた。サタンと戦うには聖霊に満たされなければできません

使徒 13:12, この出来事を見た総督は、主の教えに驚嘆して信仰にはいった。

結論

悪魔は、宣教を妨害します。使徒 3 章でペテロが 40 年間「美しの門」のところに毎日運ばれてきていた生まれつき歩けない人を歩けるようにした事で、多く的人是驚き、ペテロを見に集まってきました。そこでペテロは「イエス・キリストの権威がこの人を歩けるようにしたのだ」とイエス・キリストを宣べ伝えた。

使徒 4 章で祭司長、サドカイ人たちがやってきて、ペテロを牢屋に入れ、翌日大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル、その他の大祭司がペテロを尋問した。

ペテロは、「あなたがたが十字架につけたが神が死者の中から蘇らせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのです」とメッセージをしました。判決は「今後一切イエスの名によってかたってはならない。」でした。

使徒たちが病人を癒すと大祭司とサドカイ派の人たちは、ねたみに燃えて立ち上がり、使徒たちを捕えて留置場に入れた。このように福音を語ると必ず悪魔が妨害してきます。

使徒 7 章でステパノがメッセージをした時、大祭司や律法学者たちはステパノを石で打ち殺した。

使徒 8 章 ピリポがサマリヤで福音を語ったとき、悪魔の妨害を受けた。

使徒 9 章 サウロが救われて「イエスがキリストである」と宣べ伝えたので、ユダヤ人た

ちはサウロを殺そうとした。悪魔は福音を語るものをいつも迫害します。
使徒 12 章 ヘロデはヤコブを殺しペテロを殺そうとした。悪魔は福音を語る者をいつも迫害します。

宣教には聖霊に満たされることがどうしても必要です。

エペソ 5:18, また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。

「満たす」とはセイヤーのギリシャ語辞典によると「人の思いを全く支配してしまうこと」とあります。

「聖霊様、あなたが私の思い（自我）を完全に支配してください」と祈るべきです。私たちの問題は 100 のうち 99 は自分の思いでやっています。

ヨハネ 14:26, しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

私はどうすればよいかわからない問題があった時、「聖霊様、どうしたらよいでしょうか」と祈りましたが、答えを得ることが出来ませんでした。そんな時は主にゆだねて何もしませんでした。しかし「聖霊様どうしたらよいでしょうか」と祈るべきです。

I コリント 3:16, あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。

私たちの現実には聖霊様が内住してくださっていることを忘れていたような状態です。「聖霊様、あなたが私の思い（自我）を完全に支配して下さい」から全くかけ離れています。

まず聖霊様が内住しておられることを忘れない方法は、I コリント 3:16 をいつも暗唱することです。そして聖霊様は人格を持っておられるので、人格者としての聖霊様に私の思い（自我）を支配していただくことです。私たちの日常生活ではどうして良いかわからないことが沢山あります。

ヨハネ 14:26, しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

「聖霊はあなたがたにすべてのことを教え」
私たちはどうしてよいかわからないとき、「聖霊様、どうしたらよいか教えてください」と祈ったことがありますか。祈りましょう。

【説教:大木英雄牧師】